

公認不正検査士

CFE Program

CFE

Abitus

Abitus keeps changing to help people change themselves.

アビタスは、自己変革しようとする人のために、自ら変革し続けます。

※Abitusとはラテン語で「出発」を意味します。

公認不正検査士 CFE Program

- P.6 CFE(公認不正検査士)とは
- P.8 合格実績と合格者の声
- P.12 CFE 試験について
- P.16 アビタスの教材とサポート
- P.22 お申し込み方法
- P.23 よくあるご質問・各種イベント

代表からのメッセージ

今、不正は組織において潜在的に存在しているという前提で対策を講じることが求められています。そのためには、「コンプライアンス重視」という標語を掲げるだけではもちろん不十分ですし、組織内でこれまで有効とされてきたチェックシステムも継続的に見直していく必要があります。

CFE(Certified Fraud Examiner: 公認不正検査士)は、不正に関する体系的な知識を備えた専門家を養成する国際資格です。

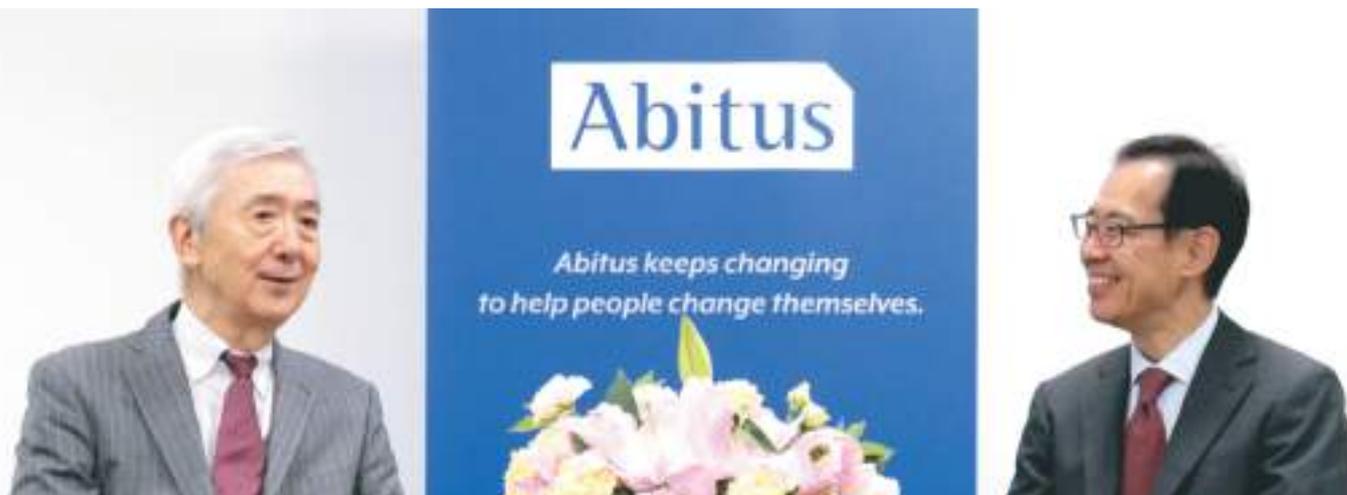
不正の手口や原因を学ぶだけでなく、不正調査をどう行うか、不正が分かったときにどう対処するかなどの方法論についても世界標準の知識を学びます。CFEは文字通り「不正検査のエキスパート」です。米国企業では、組織内のさまざまな部署にCFE保持者がおり、CFE保持者が多い企業の方が不正発見までの時間も短く、被害額も少ないという調査報告があります。

CFEとして組織の健全な存続に貢献するという目的の実現に、わたくしどもの講座をご活用いただければ幸いです。



アビタス代表
米国公認会計士 公認内部監査人

三輪 豊明



組織の不正に関する報道が後を絶ちません。今、不正は組織において潜在的に存在しているという前提で対策を講じることが求められています。CFE (Certified Fraud Examiner; 公認不正検査士)ら会員を持つ一般社団法人 日本公認不正検査士協会 (ACFE JAPAN) の藤沼亜起理事長とアビタス代表の三輪豊明が、組織の不正対策とCFE資格の意義について対談しました。

CFE の役割は「不正の事前防止や抑止」にこそある

一般社団法人 日本公認不正検査士協会 (ACFE JAPAN)
理事長
藤沼 亜起氏

アビタス代表
三輪 豊明

小規模な不正会計でも年数が重なって大きな額に

三輪豊明 世界的企業の不正会計や機密漏えい、公的機関の文書偽造をはじめ、不正に関する報道を毎日のように目にします。

藤沼理事長 上場会社に関わる不正は、会計不正事案と開示不正事案の二つに大きく分けることができます。私がIFAC (国際会計士連盟) 会長であった時代 (2000~02年) には、米国でのエンロン社とワールドコム社の大型不正



会計事案に遭遇し、JICPA (日本公認会計士協会) 会長時代 (2004~07年) には、ライブドアなどの新興企業の一連の不正が発覚しました。近年、製造業では品質管理データの偽造・ねつ造が相次ぎました。開示不正事件の範疇に入る、大手広告代理店による労働基準法違反事件も社会問題になりました。

三輪 不正そのものが増えていくと捉えるべきでしょうか。

藤沼 不正会計の件数は、2008年度27社が、2015年度37社、2017年度には64社と確かに増加しています (2018年4月商工リサーチ調べ)。2017年を内容別に見ると粉飾22社、着服13社、誤謬 (誤り) が29社で、誤謬の内容は不明です。

三輪 不正か誤りかは、意図があるかどうかですね。

藤沼 そうですね。不正会計の理由は会計が難しくなってきたという面もあります。近年「子会社・関連会社」で発生する不正会計が増加しており、2017年は親会社での発生数を上回っています (子会社・関連会社30社、親会社23社)。日本の会社は子会社管理の部隊が必ずしも海外まで見ておらず、買収先の現地 (法人) に任せがちです。小規模な不正会計でも年数が重なって大きな額になることは珍しくありません。海外子会社に関しても、抜き打ちで監査に訪れることが必要だと思います。

不正のトライアングル (動機・機会・正当化) を考える

三輪 未然防止策についてはいかがでしょうか。

藤沼 不正問題には企業内のさまざまな部署が関わります。会計不正であれば経理財務部や内部監査部だけでなく、法務部や広報部が加わることもあります。製造部門に関係する問題は品質管理部門が、海外や国内の子会社・関連会社の問題は海外・国内事業部門などが担当部署になる会社もあるでしょう。いろいろな部門が関与しなければならない中で、日本の会社の場合は連携がうまくとれていないケースが多々あります。社長には報告したけれど他部署は知らないとか、その逆に社長にまで上げる事案ではないだろうと思っている間に問題が大きくなってしまいます。これは内部統制の基本的要素である「情報と伝達」に問題があったのではないかと思います。不正が発覚した場合の責任者(執行役)とその指揮命令系統を事前に明確にしておくこと、また関係部門間の情報の共有や連携が重要になると思います。

ACFEでは、不正のトライアングル(動機・機会・正当化)の視点を強調しています。経営上層部による収益目標達成のプレッシャーや、業界慣行による製品引渡し納期厳守のプレッシャーが不正を動く動機になります。多額の借金をしている者が、着服などに走る場合もあります。人間は一般に、プレッシャーやお金に困っていることなどが動機になり不正に走るのであって、性善説や性悪説で人間を判断することはできないと思います。

CFEは犯罪の心理まで踏み込んで学ぶ

三輪 CFE資格取得者が果たす役割についてお考えをお聞かせください。

藤沼 CFEの主な役割は、不正の摘発や検査のみならず「不正の事前防止や抑止」にあると思います。CFEの視点を理解することが、CIA(公認内部監査人)やCPA(公認会計士)、また社外役員にとっても、大変役に立ちます。これは、長年公認会計士として企業の外部監査に携わり、また約10年間社外役員としてコーポレートガバナンスを担ってきた私の実感です。不正に対する感度が上がるのです。「大事は小事より起こる」という言葉もあるように、自分の部下の行動を見て「大丈夫なのかな?」と思ったときに、注意を促すことで、小事でことを納められるという感じがしています。

CFEの知識体系は、①「財務取引と不正スキーム」、②「法律」、③「不正調査」、④「不正の防止と抑止」の、4つの分野に分かれています。「財務取引と不正スキーム」は会計上の不正をどう見抜いていくか、「法律」は不正調査をする

にあたって知っておくべき法律、どんなものに抵触すると不正になるのかなど、「不正調査」はいかに不正調査を行うかを学びます。四つ目の「不正の防止と抑止」は、もともとは倫理を含めた「犯罪学と倫理」という科目でした。不正対応のプロになっていくには、犯罪学と倫理も非常に大きなテーマとなっています。

米国では、CFE資格保持者の職種は、内部監査部門にとどまらず、財務経理部、法務部などの担当者の中にCFEの資格ホルダーがいるケースが少なくありません。CFEは公的機関の要請を受けて不正検査をしており、米国のACFE会員は、CIA、会計士、弁護士、金融機関の担当者、GAO(米国政府会計検査院)や連邦・州政府の監査部門・税務部門など広範囲にわたります。

専門領域を名刺で示すことができる

藤沼 ACFE JAPANは2005年4月に発足し、約1800人の会員(CFE資格者約1200人)を擁しています。日本でも、内部監査人、会計士、弁護士、金融機関の担当者、政府機関の人々などに広がってきています。

米国は、公認会計士ならCPAと名刺に表記します。同様に、CFE(公認不正検査士)と表記している人がたくさんいます。自分の専門領域を示すという面でも非常に有効だからです。品質データ偽装といった開示不正の領域でも、CFEが一人でも入ると違うのかなという気がしています。

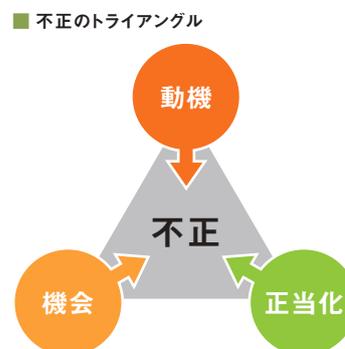
三輪 最後にCFEを目指す方々へのメッセージをお願いいたします。

藤沼 日本ではコーポレートガバナンス改革が進行中で、取締役会は攻めの経営を求められています。攻めと守りは車の両輪で、健全な企業風土と強固な内部統制組織によって支えられることがその前提条件です。CFEは企業の抱える様々なリスクの評価に基づき、Anti-Fraud Program(対不正プログラム)を準備し適切に対応することが求められています。これらが評価されCFEに対する社会や企業における認知が広がり、結果として企業の多くの部署でCFEが配置され活躍することを期待しています。



CFE(公認不正検査士)とは

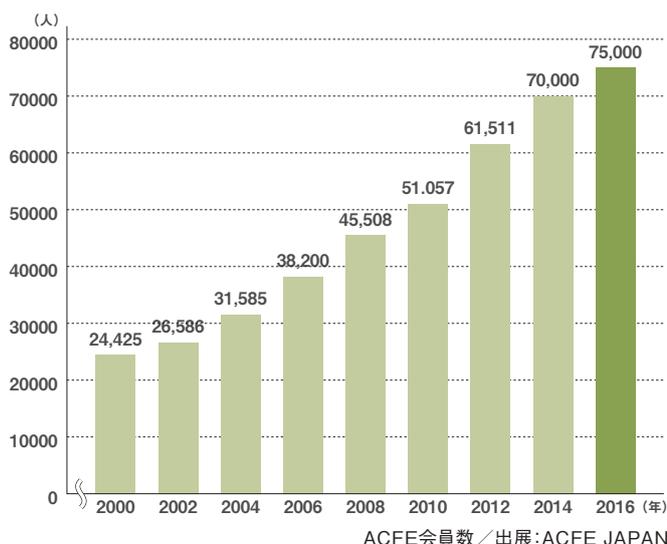
CFE(Certified Fraud Examiner:公認不正検査士)は、不正対策強化に貢献できる世界標準の素養を備えたエキスパートです。不正には、不正を犯す「動機」や「機会」、不正行為の「正当化」という3つの要因があります。組織の不正対策の有効性を高めるためには、内部統制によって「機会」の最小化を図ることはもちろん、具体的手法や人間の心理がもたらす「動機」、「正当化」にまで理解を深め、疑惑が生じたときには的確に調査を進められる体制を整えておく必要があります。CFE資格保持者は、この体制構築に貢献できる人材として、世界の経営者、監査人に注目されています。



出典:ACFE JAPAN

不正対策に関する専門性を証明する国際資格

CFEは、米国テキサス州に本部を置くACFE (Association of Certified Fraud Examiners: 公認不正検査士協会)が認定する国際資格です。ACFEは1988年に設立されました。全世界に約170支部、会員約75,000人を有し、不正対策に関する最先端の知識と問題解決策を提供しています。日本支部は「一般社団法人日本公認不正検査士協会(ACFE JAPAN)」として、個人会員1,898人、法人会員50社(2018年12月時点)で構成されています。CFEは不正に関する専門性を証明する国際資格として、世界で認定者が増えています。



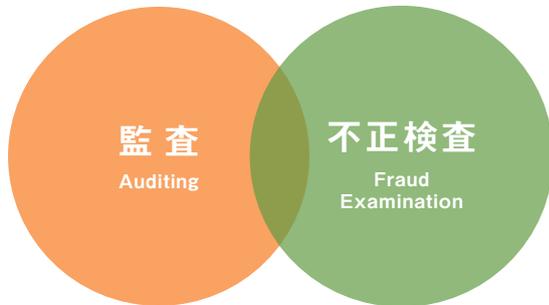
不正リスク対応能力の向上

■ 不正に関する横断的な知識を習得

コンプライアンスやCSR(企業の社会的責任)に対する要請の高まりにより、不正リスクにどの程度対応できているかが企業価値に影響する時代となりました。ACFEは、組織の不正リスク対策に重要な4つの分野を以下のように定めており、CFE資格保持者は、こうした横断的な知見をもって、不正が「どのようにして」起こるのかだけでなく、「なぜ」起きるのかにも着目してリスクの評価、対応を行います。

- ① 財務取引と不正スキーム
- ② 法律
- ③ 不正調査
- ④ 不正の防止と抑止

■ 監査人としての活動領域の拡大



CFEの活躍の場	
業種	事業会社 監査法人 コンサルティング・ファーム 会計事務所 など
職種	内部監査 コンプライアンス(法務) 経理・財務 など

CFEの知識体系は、従来の監査とは異なる観点から形成されており、監査人の知見を広げるとともに監査の品質向上にも資するものです。そのキャリアは、不正調査という限られた領域から、マネージャー層や経営者まで、内部統制をつかさどるあらゆるポジションへと広がりを見せています。

内部監査、コンプライアンス(法務)、経理・財務といった職種で、不正に対して感度の高い人材を配置することは、組織としての対応能力も高めます。

CFEは名刺に記載でき、社内外に対してのアピールが可能な資格です。日本においては、監査法人やコンサルティング・ファーム、会計事務所を中心にCFE資格保持者が求められています。一般事業会社においては、特に金融機関でCFEのリクルーティングが行われており、社内でも資格取得を推奨されるケースが増えています。

Message

専門領域をさらに広げる次のステップ

不正事案が後を絶ちません。不正が、発生を許してしまった組織に対し、その存続を脅かすダメージを与えるケースも少なくありません。コンプライアンスやコーポレート・ガバナンスに対する機運が社会的に高まるなか、不正を「あるはずがないもの」ではなく、「あるかもしれないもの」と扱い、組織として不正リスクに正面から取り組むことが求められています。

このようななかで、CFE(公認不正検査士)という資格は、不正調査を含む不正リスク対応の専門的な知識と技能を示す国際的に広く認知された資格として、日本でもその需要が急速に高まっています。

一般に、不正への対処には、防止、発見、調査および事後・是正措置などさまざまな局面があり、それぞれの局面で異なる知識や技能が求められます。CFE試験の内容は、財務・法律知識のほか、不正を起こす人間の心理や不正調査技術にわたっており、CFE試験に向けた学習を通じて不正にかかわるあらゆる局面に必要な知識と技能を習得することができます。また、公認会計士やU.S.CPA(米国公認会計士)、CIA(公認内部監査人)、CISA®(公認情報システム監査人)などの資格保有者が、自身の専門領域をさらに広げる次のステップとしてCFE資格を取得するケースが多いのも特徴です。

CFEという資格は、必ずや皆さんの活動領域を広げることに貢献するものと確信しています。一人でも多くの方々が、CFEの仲間入りを果たされることを楽しみにしています。



PwC京都監査法人
パートナー
公認会計士
米国公認会計士
公認不正検査士

山田 善隆氏

合格実績と合格者の声

合格実績

アビタスのCFE合格者は

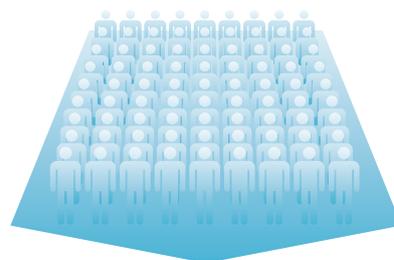
97名!

アビタスのCFE(公認不正検査士)プログラムは2018年9月に開講しました。開講以降順調に合格者を輩出し続け、2019年8月時点で、累計合格者97名に達しました。

開講以来の合格率は約80%と圧倒的な実績を誇ります。

※アビタスCFEプログラム受講生に実施した試験結果アンケートに基づく。

2018年9月 CFEプログラム開講



2019年8月時点 **97名**

CFE試験のアビタス受講生累計合格者数

合格者の声

自治体監査においてCFE資格を持つことは大きな意義

自治体の行政委員会(監査委員会)で監査に従事しています。残念ながら自治体においては収賄や資産の横領など不正が後を絶ちません。こうした中で、2020年度から自治体においても内部統制の整備、運用が法定化されました。不正の未然防止や再発防止の観点から監査を実施する重要性が益々高まってきました。自治体監査に従事する上でCFE資格を持つ意義は非常に大きいと考え、目指すことにしました。

監査業務に従事する上でCFEの知識体系は、課題検出事項の根本原因追求や再発防止策の検討において必要不可欠です。IIA(内部監査人協会)の「内部監査の専門職的実施の国際基準」にもある通り、監査人は不正のリスクを評価するための十分な知識を有することや不正の可能性に配慮して専門職としての正当な注意を払う必要があります。CFEの学習を通じて監査の充実・強化に資することができます。

CFE資格取得にはCIA(公認内部監査人)やCISA®(公認情報システム監査人)の学習が役に立ちました。この3つの資格は監査という共通の土俵の上にありますので相互に関連しています。CFE資格を目指す上でCIAやCISA®の知識が有効であったように、CFEの勉強を終えると即ちCIAやCISA®の資格取得も視野に入ってくるのではないのでしょうか。



大阪市行政委員会事務局
監査部

浅野 英樹さん

監査人としての寿命が5年は延びたと自負

CIA (公認内部監査人)としての幅

1999年1月以来、IFRS (国際会計基準) 導入プロジェクトなど他の仕事に就いていた2年間を除くと約17年半内部監査に従事し、最近はマネジメントにも関与しています。その間、業務に役立つ専門資格としてCIA (公認内部監査人)を2000年11月、U.S.CPA (米国公認会計士)を2003年8月に取得し、内部監査実務に活かしてきました。近年は、大企業の会計や検査での不正問題が発生し、世の中で不正への関心が高まる中、私自身も身近な問題としてマンション管理組合での不正に直面し、不正検査を基礎からしっかりと勉強しCIAとしての幅を広げたいと考えたため、CFEの取得を目指すことにしました。

eラーニングと通学を併用し効率的に学習

アビタスではU.S.CPAなどを学習した経験があり、受講生割引など特典もあったのでアビタスのプログラムならCFEも効率的に学習できると考えて決めました。結果的に大成功でした。eラーニング・通学併用コースでしたが、ほとんど通学で勉強し、欠席時の分はeラーニングで自習しました。教材はかなりのボリュームがありましたが、講師がメリハリをつけて講義いただいたので効率的に学べたと思います。

実務に直結するものだと実感

マネジメント・チームの一員でもあるので、内部監査だけでなくマネジメントにも役立つ、深めることを目的に学習しました。法律、インタビューの技術、証拠に関する知識などは実務に直結するものだと実感しています。また、CFEを学んだことで監査人としての寿命が5年は延びたと自負しています。

受験対策としては、通学、eラーニングどちらもアビタスでの講義、テキスト、問題集で十分だと思います。試験に必要な項目が効率的に学習できると思います。私の場合には、講義後にテキストをさらっと復習し、MC (選択問題) を解きました。MCは試験までに計3回繰り返しました。約2カ月半の試験勉強期間でしたが、最初から全4科目一発合格を目指していたので、そのつもりで勉強し、結果がでたので達成感があります。



楽天信託株式会社
常務取締役兼
内部監査部長

平岡 正和さん

不正防止の社内SNS発信など実務に直結

不正に関する業務レベルを高めるため、CFEチャレンジを決意

2017年1月に内部監査部門に異動し業務経験を積む中で、不正に関して3点で業務レベルを上げたいと考えるようになりました。一つ目は「人はなぜ不正を犯すのか、どうすればそれを防げるのか」を体系的に理解し、自社で有効な予防策を展開すること。二つ目は「記録などから不正を検査する」確かなプロセスを身に付け、日常の監査業務の中で、社内を健全な意味で牽制すること。三つ目は、万が一従業員が行う横領、汚職、利益相反、保険詐欺などの不正を調査する立場になった時、プロの監査人として法に触れることなく確実に事実を突き止めることです。CFEはこれらを体系的に学べるため、迷わずチャレンジしました。

学習はなじみある科目からスタートし、実務に紐づけて理解

アビタスのCFEプログラムは2018年に開講したばかりで、最新の出題傾向に合致していると考え、2018年9月に受講を決めました。以前にCIA(公認内部監査人)プログラムも利用しており、MC(選択問題)カードや受験サポートが、自分の学習スタイルに合っていることもわかっていました。実際の学習においては、個々人のバックグラウンドや現在の仕事によって、科目の理解のしやすさが異なると思います。私の場合はCIA学習で「不正調査」「不正の防止と抑止」の科目になじみがあったので、この2科目から学習を始め、ペースをつかみました。逆に「法律」の科目は未知の範囲であり、「裁判に発展することがあり得るのだな、こういうことを監査や調査で気を付けないといけないな」と実務に紐づけて理解し、楽しむイメージで学習を進めました。取り組みやすい科目からスタートする、知らない科目は実務と紐づけてイメージするという2つを実践すれば、学習に弾みがつくのでおすすめです。

CFE取得後に社内外で情報収集し、新しい提案につなげる

CFEは、実業務で活かせることが、大きなメリットだと感じています。例えば社内では、CFEで学んだことを活かし、不正がなぜ起こるかなどを啓発するSNSの発信をしています。また、それらの基礎知識を従業員に広く理解してもらった上で、周囲の不正の兆候を再確認してもらうアンケートを実施し、新たな情報収集に成功しています。社外では、他社のCFE資格者との情報交換やカンファレンスの機会があり、実務的、かつ突っ込んだ情報収集ができるようになりました。CFEを取得したことで知識の多くの引き出しができ、自分の考えも整理しやすくなり、臆せずに社内外の関係者と話せるようになりました。それらは社内での新たな改善提案につながっています。



製造業

内部監査室

岩本 純二さん

セカンドキャリアを見据えた資格

セカンドキャリアについては一般事業法人の内部監査部門を希望しており、CFE資格はそのために持っていても損はない資格と考えたため目指すことにしました。またCFEはCIA(公認内部監査人)・CISA(公認情報システム監査人)などと並んで会社の推奨資格となっており補助金が出ることもありました。

アビタスは、CIA受験の際にお世話になったこともあり、アビタスの教材や学習環境等に信頼を置いていました。CIA・CISAに続いてCFEを取得したことで、自分に少し自信が持てるようになったことと、仕事を行う上でも視野がより広がったことがメリットだと思います。

毎週の講義をしっかりと聞いて、その後、MC(選択問題)を繰り返し解いて記憶を定着させれば、必ず合格まで到達できると思いますので、最後まで諦めずに頑張ってください。



金融・保険・不動産
内部監査部門

谷村 滋さん

より専門的知識習得が必要と痛感し受験

会社で不正対策関連業務に従事した際、より専門的知識習得が必要と痛感しました。併せて、資格取得する事で、業務における一層の人間的な厚みと広がりを感じ、社会的な権威と価値を上げたかったのでCFE資格を目指すことにしました。

CIA(公認内部監査人)試験でもアビタスにお世話になり合格出来たので、アビタスの講義聴講とMC履修が合格への近道と信頼していました。不正スキームや不正調査、法律などについて体系的に知識習得出来ました。

アビタスの講義とテキストとMCカードのみで勉強、実質2カ月強の準備で全科目一発合格しました。最後の2週間は徹底的にMCを繰り返し攻略、平日の夜と土日終日を集中的に学習に費やしました。本番の問題はオーソドックスなので、MCの内容を脳の片隅に少しでも残しておけば、試験会場で答えを捻り出すことができると思います。



金融・保険・不動産
役員

Wさん

CFE試験について

CFE試験は、4年制大学を卒業し、ACFE（公認不正検査士協会）の会員となれば受験資格を得られます。4年制大学を卒業していなくても、実務経験や不正対策に関する他資格を持っていれば受験できます。

■ 試験は4科目

試験科目と試験内容

CFE試験は「Section」と呼ばれる4科目で構成されています。資格認定には全4科目に合格する必要があります。

試験科目	出題言語	出題形式	問題数	試験時間
Section 1 財務取引と不正スキーム	日本語	4択または2択 マークシート	各125問	1日目 10:00～12:00 (2時間)
Section 2 法律				1日目 13:00～15:00 (2時間)
Section 3 不正調査				2日目 10:00～12:00 (2時間)
Section 4 不正の防止と抑止				2日目 13:00～15:00 (2時間)

合格基準

各科目いずれも正答率75%以上(94問以上)

試験日程

年2回(6月、12月)。日程は2日間。

土曜にSection1とSection2、日曜にSection3とSection4を実施。

受験申請期間が決まっています。詳しくはお問い合わせください。

試験会場

東京、大阪の2カ所 会場は受験者数による

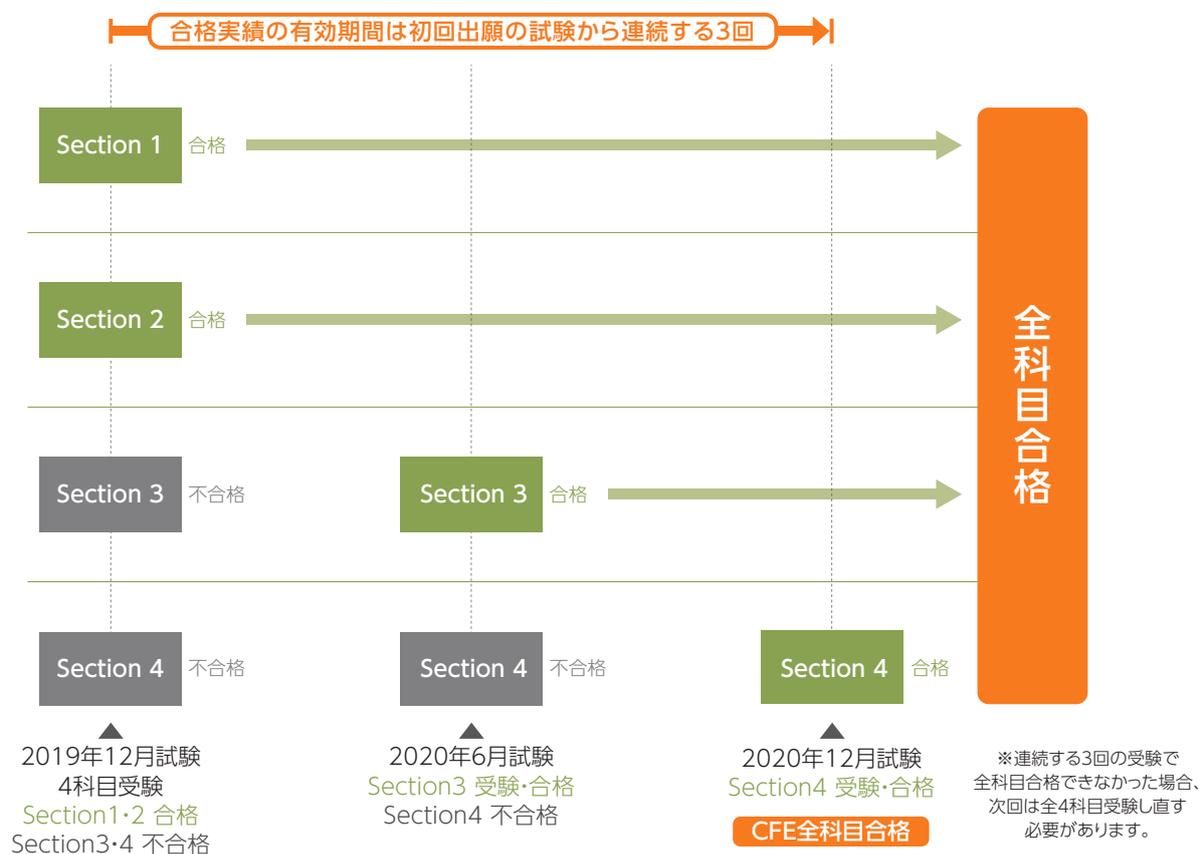
初回受験に関わる費用(消費税10%込)	
ACFE 会員入会金	¥5,500
ACFE 年会費	¥22,000
受験登録料	¥5,500
科目受験料(4科目分)	¥22,000
合計	¥55,000

※ 2回目以降の受験は、1科目ごとに¥5,500

※ 法人会員企業にお勤めの方はACFE会員入会金と受験登録料免除

■ 合格実績の有効期間は初回から約1年

初回受験においては、4科目全て出願する事が必要です。出願後に受験しなかった科目は不合格扱いとなります。科目合格の有効期間は、初めに受験した試験から連続する3回の試験までです。例えば初回出願が12月試験の場合、翌年12月の試験までの実質約1年間が有効期間となります。



FAQ

Q. 2019年12月試験でSection1、次の2020年6月試験でSection2に合格した場合、Section2の合格は2020年12月の試験ではなく、2021年6月試験まで引き継がれますか。

A. 引き継がれません。合格実績の有効期間は初めの2019年12月試験から起算しますので、Section2の有効期間も2020年12月試験までです。

■ 受験条件は4年制大学卒の学位または実務経験などで充足

2つの受験条件

- ① ACFE個人会員であること
- ② 資格点数が40点以上あること
 - 例1) 4年制大学卒業=40点
 - 例2) 大学3年次中退(20点)+ 実務経験2年(10点)+ CIA資格(10点)= 40点
 - 例3) 4年制大学卒業学位なし(0点)+ 実務経験8年(40点)= 40点

資格点数の算出方法

資格種別	資格	資格点数
学歴	学士	1年につき10点 (4年制大学卒で40点)
	修士	5点
	博士	5点
不正対策 関連業務経験	会計・監査 不正調査 損失防止 など	各1年につき5点
不正対策 関連資格	公認会計士 弁護士 税理士 中小企業診断士 社会保険労務士 U.S.CPA(米国公認会計士) CIA(公認内部監査人) CISA®(公認情報システム監査人) など	各資格につき10点

不正対策関連業務経験

会計、監査(外部監査、内部監査)、不正調査、損失防止(企業の総務部門、リスクマネジメント部門など)、法律(弁護士、企業の法務部門など)が含まれます。

※実務経験が該当するか不明な場合はACFEへお問い合わせください。

TEL : 03-5296-8338 Email : info@acfe.jp

■ CFE認定には2年以上の不正対策関連業務経験が必須

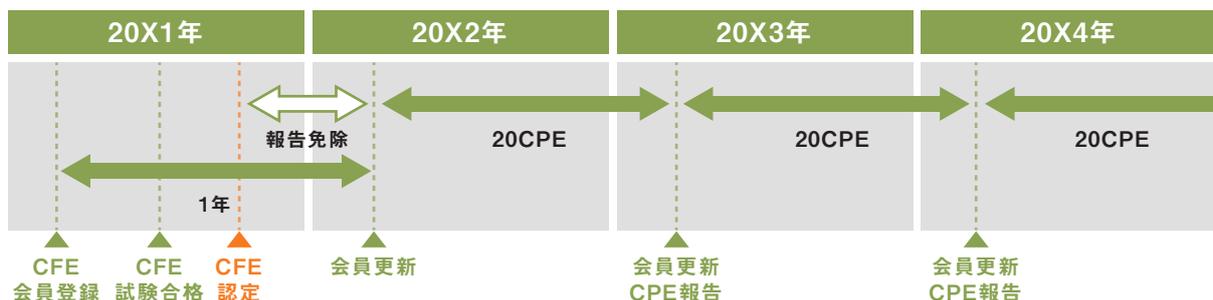
合格後の3つの資格認定条件

- ① CFE試験に合格していること
- ② ACFE個人会員であること
- ③ 2年以上の不正対策関連業務の経験を含めて50点以上の資格点数があること
 - 例) 4年制大学卒業(40点) + 実務経験2年(10点) = 50点

※4年制大学卒業の学位(40点)に、資格取得の点数10点を加算し50点としても、実務経験が2年以上ないと認められません。

継続教育制度 (Continuing Professional Education : CPE)

CFE認定者が専門職としてふさわしい能力・知識の開発を継続させることを目的とした制度です。認定後、初回のACFE会員更新月(CFE会員登録から1年後)からCPEの取得義務が発生します。次回の会員更新月までの1年間に、20CPE(1CPEは50分の講義や研修)を取得し、報告します。CPEの範囲は、不正検査、倫理、会計・監査、管理、監督関連の研修全般に関するもので、20CPEのうち、10CPEは「不正検査」・2CPEは「倫理」を含める必要があります。他資格の継続教育として獲得したCPEを充当することもできます。



不正の早期発見、調査、防止に関する能力はあらゆる業界で求められている

この度、国際資格の専門校であるアビタス様において、2018年9月より公認不正検査士(CFE)の資格試験対策講座、「CFE Program」を開講していただく運びとなりました。ACFE JAPANとしてCFEへの道を大きく前進させる取り組みとして、大変喜んでおります。

近年、大手メーカーの不正事案が相次いだことにより、このような不正の早期発見や調査あるいは防止・抑止に関する能力があらゆる業界で求められており、不正対策の国際的な専門資格であるCFEへの注目が益々高まっております。

ACFE(公認不正検査士協会)は1988年に米国で創設され、現在、世界で8万人を超える会員組織となっています。日本では、2005年にACFEJAPANが始動し、社団法人となった現在では、CFE有資格者数も1,200名を超えました。不正対策の業務において、企業内の監査部門、法務及びコンプライアンスなど内部統制に関連する分野で多くのCFEがリーダーシップを発揮しています。CFEは、内部統制の構築やコンプライアンス環境の整備が求められる時代に、活躍の場が拡がり、その存在感を大きくしている資格といえるでしょう。

CFE資格試験の対象範囲は、「財務取引と不正スキーム」「法律」「不正調査」「不正の防止と抑止」の4分野で、非常に広い範囲の知識を学ばなければなりません。そのため、忙しいビジネスパーソンにとっては十分な学習時間の確保が必要ですので、簡単な試験ではないでしょう。この「CFEProgram」が、皆さま方をCFE試験合格への道を導く大きなサポート役となることを期待しています。

近い将来、より多くのCFEが誕生し、不正対策の専門家として活躍することを大いに期待しています。



一般社団法人
日本公認不正検査士協会
(ACFE JAPAN) 理事長

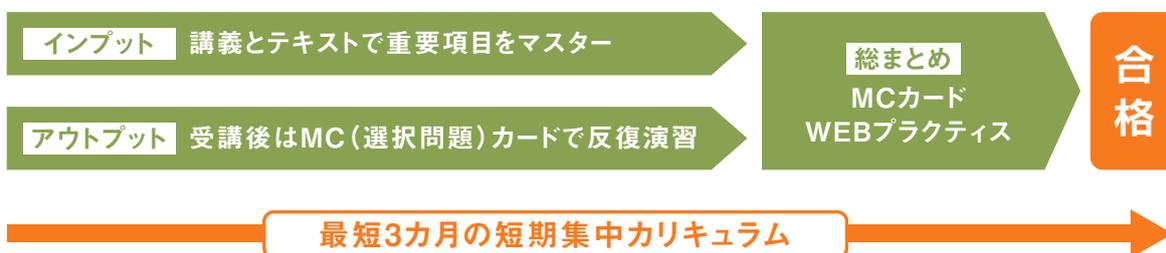
藤沼 亜起氏

アビタスの教材とサポート

アビタスCFEプログラムの特長は、質の高い講義に加え、分かりやすい教材と充実したサポートです。CFEに精通した講師陣が講義を担当し、要点を解説します。受験手続きについては、詳細なマニュアルを完備しておりますので、学習に専念していただけます。

■ 最短3カ月で合格を目指す教材構成

オリジナルテキストは図解を盛り込み、重要項目を効率良くマスターできるよう構成しています。また、問題演習コンテンツも豊富にご用意しております。インプットとアウトプットを並行しながら学習を進めることができるため、最短3カ月で合格を目指せます。



■ 選べる受講形態

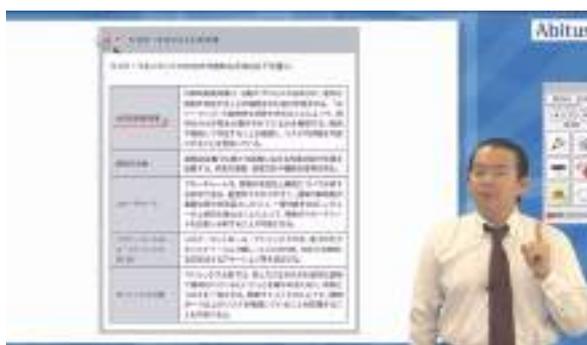
ライブ講義に出席する「通学コース」、Web上で学習を進める「eラーニング限定コース」があります。また、ライブ講義もeラーニングも両方活用したい方向けに「eラーニング・通学併用コース」をご用意しております。



ライブ講義

- 通学コースは年2回開講(2月・8月)
- 質の高いプレゼンスキルを持った講師による講義
- 週末にまとまった学習時間を確保し、重要ポイントを集中インプット
- 講義後は問題演習により頻出項目をしっかりと定着

※ 通学コース開講時期・回数に変更することがあります。



eラーニング

- 好きな時間、好きな場所で、マイペースで学習
- わからない箇所は繰り返し視聴
- 倍速再生で1回の講義をスピーディーに消化することも可能
- スキマ時間を活用して効率よく学習

※ eラーニング画面、講師は変わる可能性があります。

■ CFEプログラムカリキュラム(ライブ講義全16回・全41.5時間)

Section 1 財務取引と不正スキーム

各2.5時間

講義12.5時間

第1回	会計の概念、財務諸表不正
第2回	資産の不正流用(キャッシュ受領スキーム)、資産の不正流用(不正支出スキーム)
第3回	棚卸資産・その他の資産の窃盗、汚職の形態、知的財産の盗用、金融機関不正
第4回	小切手とクレジットカード詐欺、保険金不正、医療費不正、消費者詐欺
第5回	消費者詐欺(続き)、コンピューターおよびインターネット関連不正、契約および調達に関する不正

Section 2 法律

各2.5時間

講義10時間

第1回	法制度の概説、不正に関連する法、倒産(支払不能)詐欺
第2回	証券詐欺、マネー・ロンダリング
第3回	不正検査における個人の権利、刑事裁判制度
第4回	民事裁判制度、証拠の基本原則、証言

Section 3 不正調査

各2.5時間

講義10時間

第1回	不正検査の計画と実施、文書の分析、面接調査の理論と応用
第2回	面接調査の理論と応用(続き)、被疑者との面接および供述書の取得、秘密裏に行う不正検査、情報源
第3回	情報源(続き)、データ分析および報告ツール、デジタル・フォレンジック
第4回	デジタル・フォレンジック(続き)、不正取引の追跡、報告書の作成

Section 4 不正の防止と抑止

各3時間

講義9時間

第1回	犯罪行動の理解、ホワイトカラー犯罪、コーポレート・ガバナンス
第2回	不正対策に関する経営者の責任、不正に関する監査人の責任、不正防止プログラム、不正リスクアセスメント
第3回	不正リスクアセスメント(続き)、不正リスク管理、不正検査士の倫理、CFE職業倫理規範、CFE職業基準

All about Our Program

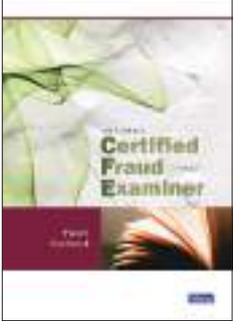
■ 効率的な学習を実現するスモールユニット方式

アビタスの教材は、試験傾向をふまえた上で、学習すべき内容をトピックごとに細分化した「スモールユニット方式」です。テキストと問題集がユニット番号で結び付いているため、関連する問題の演習をトピックごとにスムーズに行うことができ、効率良く学習を積み重ねていただくことが可能です。

テキスト・電子テキスト

合格に必要なトピックを分かりやすく解説

アビタスのオリジナルテキストは、合格に必要な学習項目を、図解や表でまとめ、一目で理解できるように構成しています。実際の不正事例も載せており、実践的な理解を促します。



58 CFE1 3-5 棚卸資産の水増し

3-5 棚卸資産の水増し

商品販売において売上金をスキミングする場合、棚卸資産の引渡しは帳簿に記録されないため、帳簿と比較して在庫数量が不足することになる。つまり、帳簿上の棚卸資産の数量が実地棚卸残高よりも多くなる。このような状態は棚卸資産の「減少(shrinkage)」と呼ばれる。

《取引》
20x1年1月10日、従業員は顧客に1個当たりの原価が\$50、販売価格が\$100の商品を100個販売し、受け取った代金\$10,000を着服した。この取引は、会計システムには全く記録されていない。この取引が行われる直前の商品の実地棚卸高は3,000個であった。

62 CFE1 3-7 スキミングの防止

事例3-7：売上金の着服・棚卸資産の過小計上

販売担当は顧客に対して行った商品販売の一部を経理部に申告しなかった。売上代金は全額を販売担当の個人口座に入金させるが、小切手により回収してから、その一部のみを会社の口座に入金した。期末の実地棚卸の際には、他の業者から一時的に商品を借り受けて、帳簿上の在庫よりも実際の在庫が減っている分を補てんし、発覚を免れた。

これは売上金のスキミングの一つである「売上金額の過少申告」の典型例である。例えば、販売担当は、商品を顧客に\$10,000販売し、そのうち\$7,000については売買契約書と納品書を作成し、経理部に提出したが、残りの\$3,000については書類を作成しなかった。そのため帳簿に計上された売上収益は\$7,000であり、\$3,000の過小計上となっている。また、売上代金は一度、販売担当が自分で受け取り、帳簿と辻褃を合わせるため\$7,000のみを会社の口座に入金する。すなわち、販売担当は\$3,000をスキミングしている。売上を過小申告した場合、実際に商品は顧客に販売されているため、棚卸資産の帳簿上残高が実際の残高よりも過大になるが、販売担当は供給業者から商品を借り受けて実際の残高を増やすことで、帳簿残高との辻褃を合わせた。不正が発覚することはなかった。

この不正が発覚しなかったのは、特に顧客からの入金管理と在庫管理に不備があったためである。まず販売員が一度代金を自分で回収することを認めていたために、着服の機会を与えてしまった。販売員が個人の口座を販売取引に使用することを禁じ、代金回収は会社口座への銀行送金のみに限るようにすべきである。また、在庫の帳簿上の記録と実地残高の照合が十分に行われていなかったことも問題である。一時的に借り受けた商品と他の商品を区別して管理していれば、不正に気付いた可能性がある。また、抜き打ちで実地棚卸を行うようになれば牽制も働いたであろう。

MC 3-5-1

MC 3-5-2

→ 帳簿残高の減少を調べ、いずるためによく問いられている手法については、Chapter5で学習する。

ユニット番号で、テキストと問題集を結び付けています

過去の事例を紹介
実際に起きた不正の事例を見て、より具体的に不正の手口や発覚までのプロセスを学べます

図解
理解すべき内容が複雑な場合、図解でわかりやすく解説しています

帳簿上の動き

（総勘定元帳）
棚卸資産残高：\$150,000 (3,000個)

（総勘定元帳）
棚卸資産残高：\$145,000 (2,900個)

（総勘定元帳）
棚卸資産残高：\$150,000 (3,000個)

（総勘定元帳）
棚卸資産残高：\$150,000 (3,000個)

帳簿上向も記載しないため残高は3,000個のまま

帳簿残高が実際の商品残高より100個多くなる

本来あるべき帳簿上の動き

本来は20x1年1月10日に以下の仕訳を行う

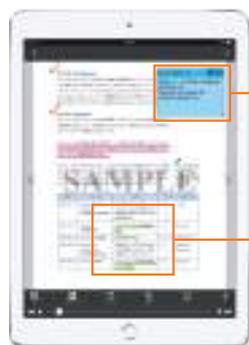
	借方	貸方
売掛金	10,000	
売上		10,000
売上原価	5,000	
棚卸資産		5,000

実際の商品の動き

3,000個

100個引渡

2,900個



- メモ機能**
テキスト形式で補足文を入力
- 色分け機能**
直線や色分けで重要部分をハイライト

さまざまな学習環境に対応できる電子テキストもご利用可能

時間と場所に縛られることなく学習を進めていただけるように、テキストを電子化しました。インターネットブラウザ上とiPhone、iPad向けアプリで提供しています。

※ 端末はご自身でご用意ください。

- メモや書き込みを端末間で同期
- 機内などオフライン環境下でも利用可能 ※専用アプリをダウンロードした端末のみ
- 網羅的・高速なテキスト検索機能で、専門用語を全テキストの範囲で一度に検索可能

MC (選択問題) カード

持ち運びに便利なA6サイズの問題集で、スキマ時間にどこでも演習可能

CFE試験は全て4択または2択の選択問題(Multiple Choice : MC)で構成されています。A6サイズのカード式問題集は持ち運びに便利で、通勤時間などのスキマ時間も活用して演習できます。問題番号は、テキストの該当ユニットと紐付いており、テキストの説明をすぐに確認できます。



MC (選択問題) WEBプラクティス

いつでもどこでも実践的トレーニング

MC問題はWeb上でも演習できます。章ごとでの演習、間違えた問題のみの演習、ユニットごとの演習、さらにはランダムに抽出しての演習ができますので、学習進捗に合わせた実践的な問題演習ツールとしてご利用いただけます。

※収録問題はMCカードと同じです。

【演習設定画面】
MC (選択問題) カードの問題番号順に、あるいはランダムに演習できます。本試験と同じ時間と問題数を設定できます。

【演習画面】
MC (選択問題) カードを画面上で演習できます。

【採点結果画面】
正解率および各問題の正誤が一覧で表示されます。

【正解と解説画面】
問題ごとの正解と解説を確認できます。

All about Our Program

■ 安心の2年間サポート

一時的に学習の中断を余儀なくされた方でも合格を目指せるように、2年間の受講サポート体制を用意しています。いずれのコースも、学習に関する質問・回答サービス、受験手続きサポートを2年間無料で受けられます。また、「通学コース」と「eラーニング・通学併用コース」の受講生は、申し込み後2年間、ライブ講義への出席が可能です(受講生専用WEBサイトから要予約)。

通学コース

ライブ講義に出席できます。講師と対面するライブ講義は学習のペースメーカーになるため、着実に学習を進められるコースです。

2年間なら何度でも出席可能

サポート期間内は、講義出席回数に制限はありません。

学習ブースも何度でも利用可能

欠席時のフォロー学習や、予習・復習時にご利用ください。各校にはWi-Fiを完備しております。ご自身のPCなどでも学習いただけます。

eラーニング・通学併用コース

ライブ講義に加えて、全16回の講義をeラーニングで視聴できます。ライブ講義を中心に受講し、欠席した回はeラーニングで補完するというアレンジができるコースです。

2年間なら何度でも講義に出席可能

通学コース同様、サポート期間内は、講義出席回数に制限はありません。

2年間なら何度でも視聴可能

サポート期間内のeラーニング視聴回数に制限はありません。

学習ブースも何度でも利用可能

自宅で集中できない場合など、学習ブースを利用して学習を進められます。各校にはWi-Fiを完備しております。ご自身のPCなどでも学習いただけます。

eラーニング限定コース

全16回の講義をeラーニングで視聴できます。ご自身のペースで学習を進めることができるコースです。

2年間なら何度でも視聴可能

サポート期間内にeラーニング視聴回数に制限はありません。

通学が難しい方にお勧め

海外や遠方にお住まいの方にお勧めです。

通学コースの開講スケジュール

年2回、試験日程に合わせて開講します。

■ 開講スケジュール

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
					試験						試験
2月期クラス				8月期クラス							

FAQ

Q. 2月・8月以外にスタートすることはできますか？

A. 可能です。eラーニングならばいつでも学習スタートいただけます。また、ライブ講義の場合でもCFEの講義はSection1～4に分かれているため、どのSectionからでも学習を始めていただけます。例えば2月期クラスの場合、3月の途中からライブ講義に出席することが可能です。

学習サポート体制

学習中

■ 学習ブース

「通学コース」、「eラーニング・通学併用コース」では、アビタス各校の学習ブースを無料でご利用いただけます。集中できる学習環境を求められる方に最適です。



■ 学習に関する質問・回答サービス

受講期間中は、受講生専用WEBサイト(受講生マイページ)から学習内容の不明点を質問できます。質問回数は無制限です。

※回答には、最長で10日間をいただきます。週3件を超える質問に対しては、翌週分の質問として対応させていただきます。



■ 受験手続きサポート

CFE試験の手続きマニュアルを完備しております。ご不明点がございましたらスタッフが丁寧にご案内いたします。



■ 資格認定手続きサポート

CFE資格の認定には、受験手続き同様、書類作成が必要になります。こちらについても詳細なマニュアルを完備しております。



合格後

■ 合格者パーティー

アビタスに合格をご報告いただいた方を合格者パーティーにご招待いたします。さまざまな業界の方に参加いただきますので、業種・職種を超えた交流が可能です。

お申し込み方法

■ お申し込み方法

Webまたは申込書でお申し込みいただけます。

Web

各校または cfe@abitus.co.jp までご希望のコースをお知らせください。当校スタッフからメールで申し込み用URLをご案内いたします。

申込書

申込書に必要事項をご記入の上、各校までご持参いただくか、郵送、ファクス、メール添付でお送りください。

■ お支払い方法

A. 現金 / 銀行振込

現金でのお支払いは、各校窓口にて。銀行振込の場合は、下記銀行口座までお振り込みください。

三菱UFJ銀行 新宿中央支店 普通 3253480 株式会社アビタス

B. クレジットカード (Web) ※通学コースはご利用いただけません。

ご利用可能なカード会社はVISA・MasterCard・JCB・アメリカンエキスプレス・ダイナースクラブの5社です。



◆ 選択可能なカード支払い回数
(ご利用のクレジットカード会社により異なります)

1回・3回・5回・6回・10回・12回・15回・18回・24回・リボ払い

受講料のお見積もり

■ アビタスよりメールにてお見積もりのご案内を差し上げます。メールに添付されているURLをクリックしてください。

見積もり内容のご確認

■ サイト上のお見積もり画面で内容を確認、個人情報を入力の上、クレジットカード決済の手続きを進めてください。
■ 「申込規約」に同意いただく必要があります。

カード決済の受付完了

■ メールにてお手続き完了のお知らせが届きます。

受講開始

■ 教材の発送を行います。なお、現金払いとの併用がある場合は、現金のお支払い後になります。

C. ローンによる月々分割払い (Web)

月々の分割払いを低金利でご利用いただけます。ボーナス併用払いも可能。

お手続き後、通常即日～2日程度でローン審査完了。可決後すぐに学習をスタートしていただけます。

(詳細は各校にご確認ください)

分割回数：3～60回。

下記事項をシミュレーションいただけます (Web)。

● 分割回数 ● ボーナス併用払いの利用有無とボーナス月の加算額

請求書発行について

- 1 申込書に必要事項をご記入の上、cfe@abitus.co.jp にファイルを送信、もしくは各校舎にご持参、ご郵送ください。
- 2 ご請求先 貴社名・部署名・ご担当者様の氏名、送付先住所・電話番号・メールアドレスなども併せてお知らせください。
- 3 追って請求書をご送付いたします。

※ 受講料振込後の役務提供となりますのであらかじめご了承ください。

よくあるご質問

■受験について

Q. 4年制大学の学位がありません。受験可能ですか。

A. 可能です。専門学校や短大をご卒業の場合、資格点数は認められませんが、大学中退や海外の3年制大学をご卒業の場合、1年につき10点の資格点数が認められます。40点に足りない部分については、関連資格や実務経験で補うことが可能です。受験時の職務経歴書については、第三者による証明は不要です。

■試験について

Q. 試験の合格率と、合格までの学習時間を教えてください。

A. 合格率は非公表です。学習時間は、お持ちの知識や経験にもよりますが、およそ100時間~200時間程度です。

■資格の認定について

Q. 合格後にすぐに不正対策関連業務経験を積む予定がなく、資格認定まで時間が空きそうです。合格実績の有効期限はありますか。

A. ありません。4つのSectionに合格した場合、合格実績がなくなることはありません。ただ、試験合格のみで資格認定を受けていない場合「CFE(公認不正検査士)」と名乗ることや、名刺に記載することはできません。

Q. 資格認定条件にある実務経験はどう証明すればいいですか。

A. ACFE JAPANのWebサイトにある所定のフォームに職務経歴を記載してACFE JAPANに郵送する必要があります。実務経験の証明は、申請者の実務をよく知る第三者(原則として上司や取引先)が作成した推薦状を添えなければなりません。アビタスでの証明サポートは承っておりません。

Event

各種イベント

■各種イベント

無料説明会

CFE試験や当校プログラムについて詳しく知りたい方のための無料説明会を開催しています。CFEプログラム受講をご検討の方は、お気軽にご参加ください。

無料カウンセリング

皆さまの疑問にアドバイザーが個別にご回答します。

- テキストや問題集を見たい
- 学習プログラムの特徴についてもっと知りたい
- 学習計画や勉強時間について相談したい
- 申し込み方法やローンについて確認したい

無料体験講義

学習を開始する上で、やはり講義の雰囲気やクオリティーは気になるものです。当校では定期的に無料体験講義を開催しています。まずは実際の講義をご体験ください。

イベントご予約

<https://www.abitus.co.jp/cfe/>

アビタス CFE

検索

<https://www.abitus.co.jp/cfe/>

■新宿本校

〒151-0053

東京都渋谷区代々木2-1-1新宿メインズタワー15階

TEL : 03-3299-3330

FAX : 03-3299-3777

JR「新宿駅」南口徒歩5分・JR「新宿駅」甲州街道改札徒歩5分
都営地下鉄新宿線・大江戸線、京王新線「新宿駅」A1出口直結

【営業時間】 平日 11:00 - 20:00
土日祝 10:00 - 20:00

【定休日】 木曜日



■八重洲校

〒103-0027

東京都中央区日本橋3-6-2日本橋フロント4階

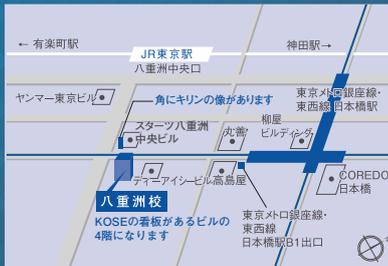
TEL : 03-3278-8800

FAX : 03-3278-8801

JR「東京駅」八重洲中央口徒歩5分
東京メトロ銀座線・東西線「日本橋駅」B1出口徒歩3分

【営業時間】 平日 12:00 - 20:00
土日祝 10:00 - 20:00

【定休日】 木曜日



■大阪校

〒530-0017

大阪府大阪市北区角田町8-1

梅田阪急ビルオフィスタワー21階

TEL : 06-6365-8660

FAX : 06-6365-8661

JR「大阪駅」御堂筋南口徒歩4分
阪急「大阪梅田駅」徒歩3分、地下鉄御堂筋線「梅田駅」徒歩2分

【営業時間】 平日 11:00 - 20:00
土日祝 10:00 - 20:00

【定休日】 木曜日



新宿本校 **03-3299-3330**

八重洲校 **03-3278-8800**

大阪校 **06-6365-8660**

受講相談専用メールアドレス

cfe@abitus.co.jp